

Let's Know Hiroshima Castle.

しろうや！広島城



No.86

天守閉城－博物館としての広島城67年

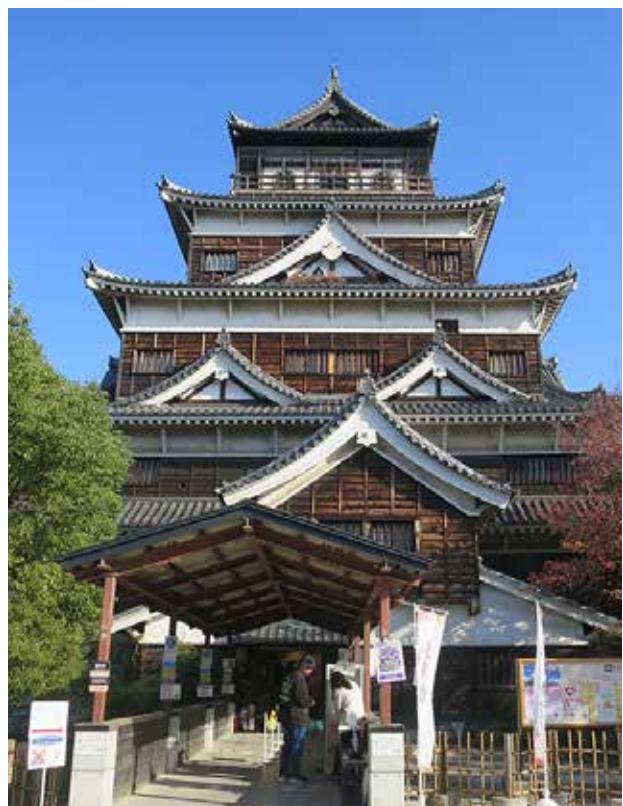
今の天守は昭和33年（1958）の広島復興大博覧会第三会場として再建されました。博覧会、そして同会終了後は広島の歴史・自然を紹介する博物館「広島城郷土館」として、平成元年（1989）には広島城と武家文化・城下町広島の歴史を紹介する施設にリニューアルされました（このあたりの経緯は「しろうや！広島城」（以下、「しろうや！」）No.9～11参照）。このように天守が再建されて67年、天守自身も変化を重ねながら広島のまちの発展を見守り続けてきました。今回は閉城迫る博物館としての広島城天守の移り変わりを紹介したいと思います。



[写真1] 通路ができる前の天守（2008年12月撮影）

天守入口までの通路新設

天守67年の歴史のなかで見た目一番の変化といえば、入口通路の設置があげられます。現在、天守に入るにはこの通路を通って内部へ入っていきますが（[写真2]）、これが取り付けられたのは7年前の平成30年（2018）、天守再建60周年という節目の年でした（「しろうや！」No.57参照）。再建されて60年が



[写真2] 現在の天守（2025年11月撮影）

経つころ、屋根瓦の固定や、外壁に使用されていたモルタルの剥落^{はくらく}が見つかったことから、入館者の安全を確保するため、このような屋根付き通路が新たに設けられました。[写真1]の通路設置前と[写真2]の現在の姿と比べてみると、天守前エリアがずいぶん狭くなった印象が感じられます。しかし、入館のために列に並ぶ人にとっては日よけになったり、急な雨でも雨宿り

ができたり、日本100名城のスタンプボックスが置かれたりと、今では大変便利な存在となりました。ちなみに、通路設置工事期間中に開催された、60周年記念の広島城メモリアルデーでは、工事用フェンスにイベント用の看板がかけられ、それを背景に兜や陣羽織の試着体験や写真撮影会が行われました。



▲メモリアル看板とともに撮影

天守出入口の看板と天守台石垣

入館チケットを購入する場所は今と同じ場所ですが、一部変わった所があります。[写真3]は広島城郷土館時代、「郷土館」という看板がかけられ、現在来館者を迎えてくれる天守台石垣が板でふさがっていました。どちらも平成のリニューアルの時に取り外されたものと思われ、その後、出入口を表示する矢印付き看板なども設置され、現在の姿になりました。



[写真3]「広島城郷土館」の入口



[写真4] 現在の入口

平成の大リニューアル

昭和と平成の天守内での一番大きな違いは、展示されていた資料にあります。昭和の「広島城郷土館」では歴史資料だけでなく、植物標本や動物標本などの自



[写真5]「郷土館」のナウマン象の展示（第二層東側）



[写真6] 現在の展示（第二層東側）

然史資料も展示されていました。なかでも一番の見所はナウマン象の化石（[写真5]）だったようで、現在、第二層東側の「広島城下絵屏風」の場所（[写真6]）に展示されていました。しかしながら、郷土館が開館し約30年が経過するころ、展示資料の見直しが行われ、平成の大リニューアルで人文系資料のみを展示する、現在の姿へと生まれ変わりました。

その後の更新

現在、第二層北側では明治から現在までの広島城の歴史をパネルで紹介していますが（[写真8]）、当初は「頬山陽・三樹三郎父子の全国遊歴と主な交流」（らいさんよう・みきさぶろう）という展示がありました（[写真7]）。江戸時代の広島の学者である頬山陽とその子・三樹三郎がそれぞれ全国をめぐり、さまざまな文化交流を行っていたことを紹介しています。しかし、展示内容がかなりマニアックだったこと、加えて天守内に明治以降の広島城の歴史を紹介する展示がなかったことから、平成20年（2008）に今の形にパネルが一新されました。

第二層はほかにも展示更新された場所があります。平成元年のリニューアル時、東側・西側の柱を取り囲むようにパネルが置かれ、東側には「広島城下の構造」



[写真7] 更新前のパネル（第二層北側）



[写真10] 現在の第二層東側のようす

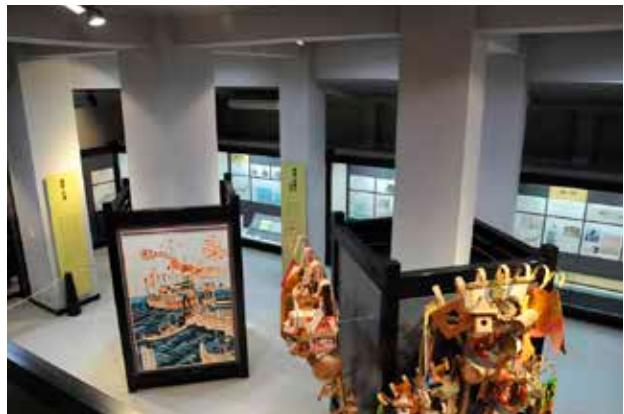


[写真8] 明治維新後の広島城（現在の第二層北側）

という、広島城下に住む人々の構成を示したパネルが（[写真9]）置かれていましたが、イチオシ資料「広島城下絵屏風」に描かれている人々や町のようすをじっくり紹介する機会がなかったため、パネルを撤去し、「広島城下絵屏風」やほかの収蔵資料などを紹介するパソコンが平成28年（2016）に導入されました（[写真10]）。また、西側には「広島の祭」を紹介するためのイラストや風景写真、えびす講の熊手（こまざらえ）の実物などが展示されていましたが（[写真11]）、開館以来収集してきた掛軸など、さまざまな資料を紹介するため、平成30年（2018）に東側同様パネルを撤去し、3台の展示ケースが導入されました（[写真12]）。



[写真9] 「城下の構造」を紹介するパネル（第二層東側）



[写真11] 祭を紹介する展示（第二層西側）



[写真12] 現在の第二層西側

このように、博物館としての広島城では、資料を扱う学芸員をはじめ、多くの職員が博物館をより良くするため時代の変化に対応し、さまざまな工夫を凝らしてきました。おかげさまで今年8月8日には、累計来城者数が1300万人を突破、来年3月22日の閉城に向け連日多くの方にご来城いただいています。私たちも閉城まで、そして新施設「広島城三の丸歴史館」開館に向かって日々励んでいきたいと思います。天守閉城までもうすぐ…ぜひ最後の広島城博物館の雄姿を見届けにお越しください。（高土尚子）

コラム — これからの広島城 — 天守閉城について

令和8年3月22日(日)天守閉城

広島城天守は、毛利輝元によって安土桃山時代に築かれました。続いて、福島氏や浅野氏を城主に迎えながら、広島のまちを見守ってきましたが、昭和20年(1945)8月6日、原爆によって倒壊しました。その後、昭和33年(1958)に「広島復興大博覧会」の会場として、多くの市民の支持により復元されたものが、現在の天守です。倒壊以前の外観を模し、鉄筋コンクリートによって再建された現天守は、博覧会後は博物館として開館し、今日に至ります。

現在、広島の武家文化を紹介する博物館として親しまれていますが、コンクリートの劣化や設備の老朽化などの問題から、安全面を考慮し、令和8年(2026)3月22日をもって約68年の歴史に幕を閉じることになりました。

来年の3月の天守閉城までの時間は、あとわずかです。現在開催中の企画展ほか、閉城に向けて、



三代目天守の豆知識 ～天守の階段は何段？？～

全国の城の中にはエレベーターがある所もありますが、階段のみの施設がほとんどで、広島城も例外ではありません。では、広島城の場合は何段あるのか…昔、職員が数えました(右表)。

合計119段！！しかも一段ごとの段差が高いので、

第四層～第五層	30
第三層～第四層	27
第二層～第三層	26
第一層～第二層	18
受付～第一層	18
計	119段

しろうや
！
広島城

編集

公益財団法人広島市文化財団 広島城
〒 730-0011
広島市中区基町 21-1
電話：082-221-7512
FAX：082-221-7519

発行

広島城アソシエイツ
令和7年12月23日発行

「しろうや！広島城」のバックナンバーは、広島城のホームページからダウンロードできます

さまざまなイベントを予定しています。イベントに参加するなど、広島城天守での思い出を作りませんか。

なお、お城の外観や石垣、二の丸復元建物等は、閉城後も引き続きお楽しみいただけます。

【閉城関連イベント】

◆天守閉城カウントダウン企画展

「広島城天守～時代を超えて語り継がれる物語～」

会期：開催中～2026年3月22日(日)

会場：広島城天守 第四層企画展示室

◆広島城アカデミック講座

「広島城天守～広島のシンボル、その記憶をたどる～」

日時：2026年2月15日(日) 13:00～17:00

会場：合人社ウェンディひと・まちプラザ

(広島市まちづくり市民交流プラザ)

その他：要事前申込。申込方法などの詳細は広島城ホームページをご覧ください。

◆閉館セレモニー

日時：2026年3月22日(日) 広島城天守閉館後

内容：広島城天守付近で実施する予定です。内容が決まり次第、広島市ホームページや広島城ホームページでお知らせします。

(広島市市民局文化スポーツ部文化振興課広島城活性化担当)

毎日上り下りを繰り返すと、とてもいい運動になります。しかし、企画展の準備などで一日に何度も往復すると、運動不足気味の私は後半には息も絶え絶え…筋肉痛になることもあります。天守にお越しになった際はぜひ各層の展示をじっくりご覧いただきながら、ゆっくり最上層まであがることをおすすめします(笑)。(高土尚子)



▲展示ケースを持って
上がるのも一苦労…

広島城利用案内

開館時間：9:00～18:00(12月～2月は17:00まで、3月の土日祝は19:00まで)
入館受付は閉館の30分前まで

観覧料：大人 370円(280円) 中学生以下無料
高校生相当・シニア(65歳以上) 180円(100円)
()内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～31日(臨時休館あり)



ホームページ▶



Instagram▶